

今年のゴールデンウィークは激しい風が吹きまくる日が続き、怖いくらいでした。この時期は“May Storm”と呼ばれるそうですが、なかなか おさまってくれない連日の暴風に、保育園でも 乳母車や様々な遊具、衝立など 思いもよらないものが思いもよらない遠いところまで吹き飛ばされていたり、強くあおられた窓ガラスがびくともしなくなり、部屋の中の物が あちこちに舞い上がったりして 大変でした。子ども達不在の保育園でしたが、何事もなく無事に守られたことに心から感謝です。皆様は影響ありませんでしたか？ ご家族で楽しいお休みを過ごされたでしょうか。

7日の朝、久しぶりに活気が戻った保育園で、子ども達と共に時を過ごしながらこの愛らしい笑顔こそが 私達の原動力であり、守るべき宝だと 改めて感じました。4月に仲間入りした己禮くん・茉白ちゃん・柚葉ちゃん・ユナちゃん・琳鳳くんもひと月が経ち、ひとりひとりが それぞれのペースで 新しい環境や園生活に慣れてだいぶ安心できるようになってきたことを感じ、嬉しく見守っているこの頃です。在園の子ども達も“進級”についての喜びが実感へと変わり、頼もしさにあふれた穏やかな笑顔が眩しく感じられます。この1年間の歩みが ほんとうに楽しみです。

さて長い連休が終わり いよいよこれから2026年度が本格的にスタートです。先日の保護者会でもお話ししたとおり、保育園は子ども達にとって、人生初めての“社会”です。この6歳までの社会生活を通して培ってきた経験は子ども達自身の人と人の中で“人間”として生きていくために必要な社会性の重要な礎となります。保育園生活における子どもの大切な姿の1つに『自分らしさをありのままに表す』があげられます。これは人間関係を構築するうえで互いの心に生まれる“信頼”が大きな要素ですが“あるがままの自分自身を肯定すること・自分らしく生きること”というのは極めて困難と感じます。でも だからこそ 大切にしたいのは心を使って目に見えないものの貴さを知ることだと切に思います。人の宝は人の心に在ります。乳幼児期に育むべきものは“心”です。世界のすべての生きとし生ける存在の中で神さまは唯一、人にのみ 心を与えてくださいました。神様からの特別な贈り物の心をたくさん使うことは、目に見えないものへ想いを馳せ、互いを想い合う温かなやさしい世界を築くことにつながります。愛し合い 信じ合い 分かち合う生き方をみんなが祈り願い、その貴さに気づき合える園生活を送るために尽力して参ります。

1日1日、ひと時ひと時の、子ども達ひとりひとりの時間を大切に、それぞれのちいさな心の中に在る“今この瞬間”の想いをしっかりと受け止めたいと思います。みんな違う成長の歩幅、まっすぐに見つめている澄んだまなざし、あふれ出る驚嘆、身体中で懸命に示してくれる ひとつひとつの言葉、しぐさ、歌声、涙の一粒一粒・・・愛すべきそのすべてを、私達おとなも、全身全霊で 懸命に心を注ぎ 共感しながら神さまの御手の中で 共に手をつなぎ 祈りつつ、前進していきたいと願っています。

「あなたの宝のあるところに、あなたの心もある。(マタイ6:21)」(石田 記)